

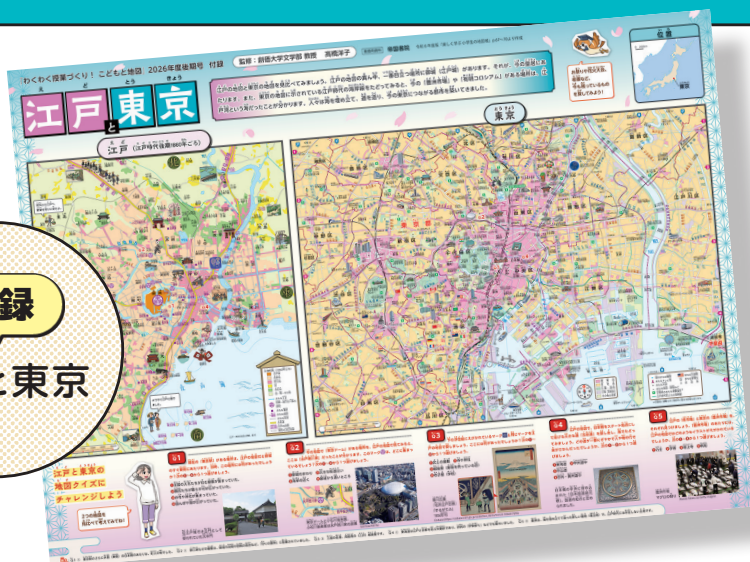


浅草寺の門前町として栄えてきた浅草（東京都台東区）
（絵：青山邦彦）

わくわく授業づくり! 帝国書院 こどもと地図

2026年度
後期号

教授用資料



付録

江戸と東京

今号で紹介する記事

地図活用全般

- 本と地図で世界を旅しよう!
- 付録解説 地図を見比べて考えよう!
- 使うと楽しい! 国語科の地図活用

3年

- 地図 with ご当地給食 せんべい汁
- 商品はどこから来ている?
- 地図記号クイズにチャレンジしよう

4年

- 地図 with ご当地訪問 瀬戸内しまなみ海道
- 「県内の伝統や文化、先人の働き」で地図帳を使ってみよう
- 映像ヒントが充実! 都道府県映像クイズに挑戦

5年

- 地図 with 絵記号のひみつ 焼き物のひみつ
- 地図上で自動車を組み立てよう
- 統計クイズで都道府県を学ぼう

6年

- 地図 with 歴史の舞台 ペリー上陸地
- 地図帳で「明治日本の産業革命遺産」を探してみよう
- 会員限定コンテンツでペリー来航の謎に迫る



3・4・5・6年生向けに分冊化!

地図にふれよう！ 活動報告

本と地図で世界を旅しよう！

●宮城県 仙台市立袋原小学校 校長 井上竜一

仙台市立袋原小学校では、「わくわく読書」を掲げて、学校・家庭・地域と連携して読書に取り組んでいます。図書館には「校長先生のおすすめの本」コーナーがあり、校長先生が、子どもたちに読んでほしい本が置かれています。今回は、袋原小学校の6年生を対象にした「本と地図で世界を旅しよう！」という図書館での読書活動をご紹介します。

本の表紙が貼られた世界地図



(左)「校長先生のおすすめの本」コーナー
(右) ALTからイギリスの本について話を聞く児童

ALTのおすすめの本も紹介



本校の図書館で、6年生を対象に「本と地図で世界を旅しよう！」をテーマに、図書館内の「校長先生のおすすめの本」コーナーにある外国に関する本を活用しながら、本と世界地図を結び付ける活動を行いました。本の表紙を小さく印刷したカードを地図上に貼る体験を通して、子どもたちは読書の楽しさと世界の広がりを楽しんでいました。

活動では、まず、おすすめの本コーナーから気になる本を選びました。物語の舞台となる国や地域、作者の出身国などを本や資料で調べ、地図帳でその場所を探しました。その後、世界地図に本の表紙を印刷したカードを貼りました。活動が進むにつれて地図の上にはさまざまな国の本が並び、まるで世界中を本で旅する読書マップのようになりました。

また、今回は本校のALTにも参加していただきました。イギリス出身のALTは、イギリスに関わる本を紹介しながら、子どもたちと一緒にその本のカードを地図上のイギリスの位置に貼りました。子どもたちは英語で簡単な質問をしたり、イギリスの文化について話を聞いたりしながら、本と国とのつながりをより身近に感じていました。

活動中には、「この本の国はここなんだ」「世界にはまだ知らない国がたくさんある」「ほかの国の本も読んでみたい」といった声が聞かれました。完成した地図を見ながら、

友達同士でおすすめの本を紹介し合う姿も見られ、読書への関心も高まっている様子でした。

参加した子どもたちからは、「地図を見ながら本を探すのが楽しかった」「本と国がつながっていることが分かった」「おすすめの本をもっと読んでみたい」「ALTの先生と一緒に活動できてうれしかった」などの感想が寄せられました。

本を読むことと地図に親しむことを結び付けた今回の活動。これからも子どもたちが本を入り口に世界へ目を向け、新たな発見や学びにつなげていくことを期待しています。



本が書かれた国を地図帳から探す子どもたち

地図を見比べて考えよう!

～江戸と東京、「空間と時間」をつなぐ深い学び～

●創価大学文学部 教授 高橋洋子



地図は、記号化や総描といった手法を用いて3Dの情報を平面に表現したもので、位置や分布、土地の様子などの空間情報を把握することができます。歴史の学習では、新旧の地図を「見比べ、重ね合わせる」という活用の工夫を加えることで、子どもたちは事象を時間軸に位置付けて捉えられるようになり、主体的な深い学びへと向かいます。

今号の付録『江戸と東京』は、見比べ、重ね合わせて考えるための地図ポスターです。6年生の歴史学習にとどまらず、ぜひ全ての教室で大いに活用してください。

ポスター右上のイラスト スパロウ先生（地図帳の使い方を紹介するキャラクター）が、私たちのくらしのなかに「今も残っているものを探してみよう!」と語りかけています。子どもたちは江戸と東京の地図を見比べて、イラストから、花見や花火、相撲、歌舞伎といった伝統文化を次々と見出していくことでしょう。身近なエンターテインメントのルーツが江戸時代にあることを直感的に捉えさせ、主体的な探究へと導く、スパロウ先生の巧みな授業デザインです。

また、江戸の地図では「郊外から江戸へ野菜を売りに来たよ。」と、御城から見て北西の方角からやって来た農民がつぶやいています。しかし、郊外から都市へ、物資が一方通行だったわけではありません。都市からは下肥が運び出され、近郊の畑での野菜作りに活用されていました（図1）。

さらに、この循環は陸上だけにとどまりません。その栄養は川へと流れ込み、さらに分解されながら運ばれて江戸前の海を豊かに育み、食物連鎖を通じて魚介を養っていました。ここで育った江戸前アナゴや芝エビ、スズキにキスなどが、江戸っ子に旬の味を提供していたわけです（図2）。資材や道具のリサイクルだけではなく、自然の生態系と見事に調和した高度な物質循環が、当時の江戸では機能していました。

さて、現代の東京を、改めてこのリサイクルの視点で捉え直してみよう。すると、私たちが今直面している水質汚濁や廃棄物処理問題、食品ロス問題など、いくつもの解決すべき現代の課題が鮮明に浮かび上がってきます。

江戸の先人たちの知恵から学び、持続可能な未来の社会をどう築いていくか、子どもたちが社会との関わり方を主体的に考え参画へと向かう、最高のきっかけとなるはずです。



図1 地図帳p.70 リサイクルが進んでいた江戸の商売



図2 寿司を食べる江戸の女性を描いた浮世絵
歌川国芳 『摘掬女并慶』[安宅の松]
1844年刊 <東京都立中央図書館>

使うと楽しい！ 国語科の地図活用



地図帳を見ながら漢字を学習する児童

●広島県 広島市立伴南小学校 校長 沖西啓子



地図帳は社会科だけではなく、国語科、算数科、音楽科、英語科など他教科でも使える場面がたくさんあります。ここでは国語科で地図帳を活用した事例を紹介します。

「小学校学習指導要領国語編」では児童の日常生活及び将来の社会生活、国語科以外の各教科等の学習における必要性を踏まえ、学年別漢字配当表の第4学年に、都道府県名に用いる漢字が配当されています。国語科で都道府県名の漢字を学習する際には、**意図的・計画的に社会科と関連付けた指導を行い、確実な定着を図ることが求められています。**その際、**地図帳を活用して学習するのが効果的であると考えます。**

例えば、国語科で「静岡」という漢字を学習する時、地図帳で静岡県の場所を確認しようと指示すれば、子どもたちはp.4～6やp.25～26を開いて、日本のどこに静岡県があるのか探すでしょう（**図1**）。p.25～26から、子どもたちは静岡県がお茶の産地であると気づきます。お茶だけではなく、みかんやオートバイの生産も盛んだと分かります。「富士山がある」と言う子どももいるでしょう。またp.128を開けば、静岡県の形が金魚に似ていることも目に留まります（**図2**）。自分の住んでいる都道府県は何の形に似ているのか考え、都道府県名を使って短文を作る学習活動も考えられます。

このように、他教科でも地図帳を活用する場面を意図的に増やすことで、子どもたちが自主的に地図帳を開き、活用できます。何より、子どもたちが地図帳を使う楽しさを知ることができます。地図帳を使えば使うほど楽しくなるでしょう。



図1 地図帳p.25～26（一部）

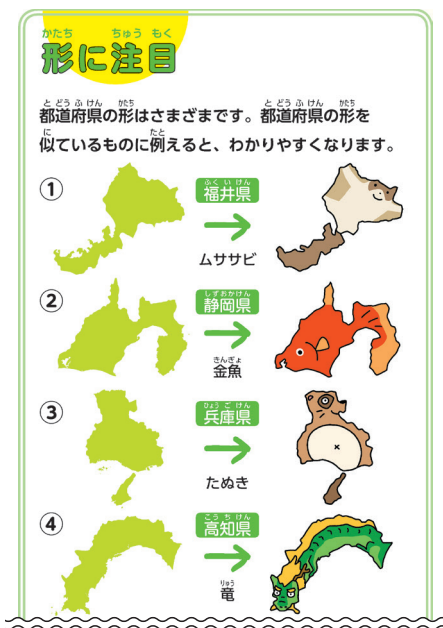


図2 地図帳p.128の「形に注目」（一部）

わくわく授業づくり！こどもと地図 2026年度後期号

2026年8月20日発行 (No.75) ©Teikoku-Shoin Co.,Ltd.2026

発行所 東京都千代田区
神田神保町3-29 (〒101-0051)
株式会社帝国書院

発行人 守屋 智央
電話 03-3262-4795 (代)
<https://www.teikokushoin.co.jp/>

『わくわく授業づくり！こどもと地図』は
Webサイトからも読むことができます。

こどもと地図についてのご意見・ご感想はこちらまで



本誌に掲載している地図帳は、令和5年検定済『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』です。

〈QRコード使用上の注意〉QRコードを読み取って表示されたサイトにアクセスした際には、別途通信料がかかる場合があります。

〈本誌掲載の他社商標について〉

・QRコードは、株式会社デンソーウェーブの商標または登録商標です。・その他の会社名および製品名・ロゴマークは各社の商号、商標または登録商標です。

教授用資料